

日本在宅 医学 会誌 雑

Vol.13 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

○巻頭言 第13回 日本在宅医学会大会	藤田 拓司	1
○会長講演 わが国の専門医制度のゆくえ	前沢 政次	5
○大会長講演 在宅医療における大規模診療所の役割	藤田 拓司	9
○シンポジウム1 在宅療法を「楽しむ」コツ (シンポジスト:長尾 和宏、小谷 泰子、丸尾多重子、服部 政治、岡原 仁志)		11
○シンポジウム2 悪性腫瘍患者が安楽に暮すために (シンポジスト:白山 宏人、内藤 純子、三輪 恭子、市橋 正子、二宮美智子)		17
○シンポジウム3 神経難病患者が安楽に暮すために (シンポジスト:川上 英孝、木村 文治、辻 宏明、小西 俊彰、赤星 真琴)		23
○ワークショップ1 認知症患者が介護施設で安楽に暮すために (シンポジスト:藤田 拓司、近藤 有香、多田 耕三、山本 誉麿)		29
○ワークショップ2 「伝える」「移動する」を支えるために (シンポジスト:松村 剛、錦織 愛、大城 克彦、若林 榮子、眞藤 英恵)		35
○ワークショップ3 「食べる」を支えるために (シンポジスト:小島 哲也、奥田 義彦、富田奈穂美、玉元 良一、金子 信子、池岡 清光)		41
○短報 在宅医療におけるNT-proBNP迅速測定装置の使用経験	久島 和洋、泰川 恵吾、曾我 幸弘、今井 一登	49
日本在宅医学会雑誌投稿規定		53
投稿承諾書		54
連絡票		55
編集後記		57

日本在宅医学会

第13回 日本在宅医学会大会

大会長 藤田 拓司

東日本大震災により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。また、被災地で医療活動やボランティアに従事されている皆様に敬意を表します。

このたび、平成23年3月12日（土）、13日（日）の2日間に渡り、大阪府豊中市で第13回日本在宅医学会を開催いたしました。前日に東日本大震災が発生し、その影響を考え、大会を開催するか否かを前沢会長、石垣副会長をはじめ連絡がついた幹事の皆様方と相談させていただき、最終的に開催するに至りました。

今大会は、「『生きる』を支える在宅医療」をテーマとして開催させていただきました。大震災の影響があり、残念ながら会長講演や一部の教育講演、一般演題の約半数がキャンセルとなってしまいましたが、約500名のご参加を頂きました。当初の予想を超える盛会をもって終了することが出来ました。学会にご参加いただきました皆様、急遽座長などの労をとっていただきました先生方に、あらためて、この場をかりて、感謝いたします。

日本在宅医学会は、在宅医療に関心を持ち実践している医師が集い、「在宅医療とは何か」を考え、医学の一専門分野としての「在宅医学」を構築していく会として1994年に発足した「在宅医療を推進する医師の会」を前身に、1999年2月に正式に結成されました。そしてこれまで医師・歯科医師が中心となって在宅医療を学問としてとらえ、科学的根拠に基づいた医療の実践を目指し、研究教育活動を推進することを目的として活動してきました。

また在宅医療は、医師・歯科医師のみでは完結するものではなく、看護師、療法士、ケアマネージャー、介護士など種々の職種の方々との協働が不可欠で、在宅医学会大会でも第10回大会（静岡、大会長 石垣 泰則先生）以降、多職種連携も重要なテーマとして取り上げてきました。

その中で日本在宅医学会大会は、その研究成果を発表する場として、そして在宅医療にかかわる多職種の方が一堂に会して研修・協議する場として、重要な位置を占めてきました。

今大会は、関西の地で初めての開催であり、関西からの情報発信と関西で在宅医療に取り組んでいる方々に、他地域の在宅医療の現状を知って頂く良い機会にしたかったのですが、大震災の影響、東日本・九州からのご参加が困難であったことから、この点は残念でした。

来年は、順天堂大学 脳神経内科教授 服部信孝大会長のもとで、東京で第14回日本在宅医学会大会が開催されます。第14回大会は、第16回日本在宅ケア学会と共同開催されます。これまで以上に多職種連携の場となると考えます。

さらなる在宅医療が推進されることを願ひまして、皆様方のご健勝を心からお祈りして、お礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。